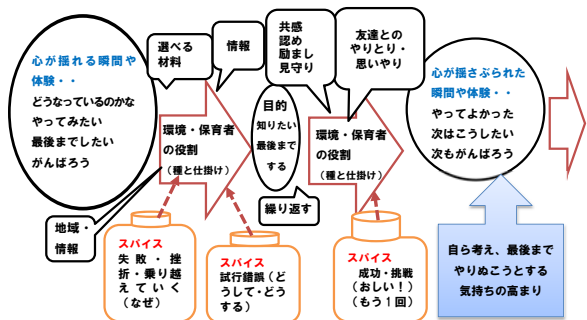


# 保育の振り返り

本実践事例集の掲載園は、「科学する心を育てる」保育の質の向上のために、保育の振り返りについて、創意工夫されています。保育者同士で多様な意見を交わし、日々の保育を振り返ることで、子どもの姿から「科学する心」につながる体験を捉えたり、新たな視点に気づいたりします。また、一つの事例をいろいろな角度から考察し、保育者間で互いの見方や考え方を話し合うことで、子どもの姿の捉え方が変化したり、深まったりすることが期待できます。

## 遊びのプロセスを図式化して見えたこと



○職員間で保育を振り返り、活動の流れの中で、「ここでどんな風を感じているのか」「こんな環境と保育者の関わりがあれば違う遊びになっていたのでは?」「活動の展開を欲張りすぎたか?引っ張ってないか?」などを学び合う機会となった。

○子どもの心が揺れ動いた瞬間の表情や言葉を逃さずに見取ったことで、次にどのような環境を用意するか、どのような保育者の言葉かけや援助が必要かが意識化された。また、職員間で、具体的に話し合えるようになり、子どもだけでなく、保育者も園生活を楽しめるようになった。

参考事例：六条幼稚園 (P.24)

## 子どもの「心の動き」に焦点を当てて振り返る

3歳児クラスの友達と段ボールで作った車に乗って園内を巡って遊んでいる姿を見て、「サファリパークにもきてもらおう」という気持ちで重なり合った3歳児。「すぐに行けるようになるには…?」「あっ!上靴のままがいいんじゃない」と部屋からつながる道作りが始まる。「これは」と新聞紙を持って来て広げて置いていくもの、すぐに風でめくれたり飛んでいったりする。そこで、ガムテープでつなぐと思っただけで長くなつたようで、嬉しそうに上靴のまま歩いていく。行きは嬉しそうだったが、引き返そうとして表情が曇る。土の上なのでこすれて破れたり濡ってしまったりした。「新聞はいかん」と、今度は折りたたんだままの段ボール箱を並べようとするが、運んだり並べたりするのに、思いのほか時間がかかり思い空気が。少し間が空き、次の瞬間「そうや!広げたら」の友達の言葉に、「うん!長くするように広げよう」と切る場所を友達同士で確かめながら切り開いている。「行くで」と友達と声を掛け合って並べ歩く。「ガムテープなしでも大丈夫」「片付けになってもすぐしまえる」と満足そう。そして「じゃあ、呼んでこよう」と3歳児クラスへ呼びに行き、「上靴のままで行けるよ」と案内する。毎日繰り返して行く中で、カーブの道やすれ違いに困り避けるスペースができた。動物の場所を動かしたりして、日々の変化している。

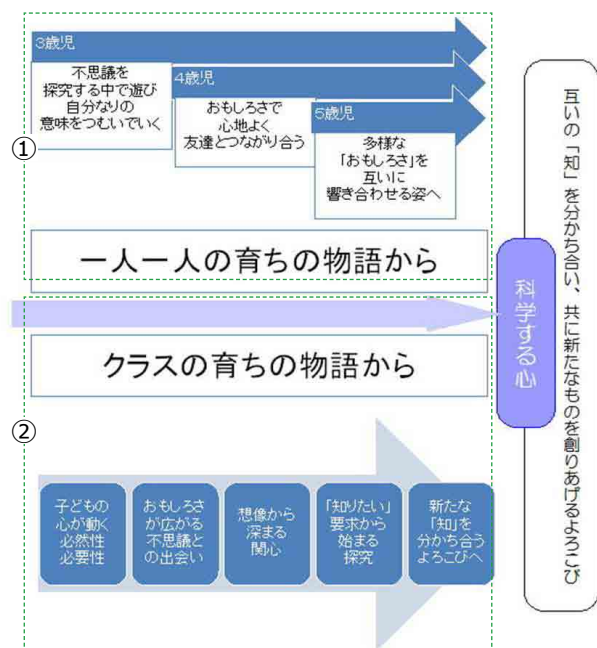
☆段ボールの車に乗り、嬉しそうに園内を巡っている3歳児の姿  
(新たな気付き・心が動く)  
・パークは園庭だから、靴の履き換えをしないといけないね。ちよっと大変?  
↓ (思考)  
・上靴のままいけるようにしたいらしいんじゃない?  
↓ (好奇の芽生え)  
・新聞で道を作ろう  
↓ (試行の始まり)  
・破れちゃう。段ボール箱は?  
(発見・新たな気付きと挑戦)  
・持ち運びが大変。箱を長く広げよう  
※広くではなく長くがみそ  
↓  
・大丈夫! (納得・満足)

子どもの心の動き

「科学する心」は、心が動いたその瞬間から始まっていると考える。そこにどんな気づきがあったか、子どもの心がどのように揺さぶられ、次の行動につながったかを丁寧に見取った。また、心揺さぶる経験を積み重ねる中で、その経験が子どもたちのどのような育ちや学びにつながっているかを捉え、探っていくために、「心の動きのプロセス」に注目した。

参考事例：あやうたこども園 (P.22)

## 一人の子どもの育ちに焦点を当てて振り返る



実践を通して、子どもとの生活の中で考えてきた「科学する心」について、左図のように、②5歳児の活動の中で育まれる「クラスの物語」と、①3歳児から5歳児までの「一人一人の育ちの物語」を重ね合わせる形で考え、保育を振り返った。

Aさんに焦点を当てて育ちを振り返ったことで、どの子どもにもその子なりの「一人一人の育ちの物語」が見えてきた。

①では、3歳児、4歳児、5歳児を、「一人一人の育ちの物語」を視点として、見つめ直したことで、改めて幼児期に大切な体験が分かった。②では、心を揺らす直接的な体験を通して、子どもが自分で見出した不思議と出会い、多様な探究の道筋を経て、互いの「知」を分かち合い、共に新たなものを創りあげる喜びこそを一人一人に育んでいきたい、との思いを強くした。

参考事例：山梨大学教育学部附属幼稚園 (P.34)